

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[24]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士(女性)]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[34]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[17]年、階級[消防士長(男性)]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A 及び B	出勤指令を聞き、車庫に降りて出勤準備をした	時間については指令を聞いてからの活動時間
経過 2	当事者 A	水槽車に乗車しようとした	
経過 3	当事者 B	A に声をかけた	
経過 4	当事者 A	ステップを踏み外し、後方へ転倒した	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。集中力、注意力がなかった。足元の安全が確保できていなかった。

- ## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなけなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○ その他

l . その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○ 注意力欠如、焦り等の対策について

急ぐのではなく、確実な行動をとるようになった（個人）
出勤時、着装に時間をかけず、他のことに時間がとれるように、着装反復訓練を実施した（個人）

○ 装備・資機材の対策について

着装した状態に慣れるように、体力を向上させる努力（体力強化訓練）をした（個人）
ステップの位置、手すりの位置等、始業点検時、出勤中だと意識して確認し実施する癖づけをした（個人）

○ 活動環境の対策について

始業点検等、マンネリ化（常に初めての行動だと意識し）しないように意識して行うようになった（小隊）

○ 指揮・情報伝達の対策について

命令に対する行動を、あわててするのではなく、一呼吸おいてでも、安全確認を実施するようになった（個人）
起こってしまった事故等の報告を意識するようになった（個人）